

提案とともに

石炭など市民目線で市政をチェック!

多様性が認められる釧路市を

性暴力、DV等の女性に対する暴力は根絶しなければなりません。性犯罪等の被害者が支援を受けられる「ワンストップ支援センター」の設立を求めましたが、市は「まずは警察に行き相談すべきこと」と支援センターの設立にはおおよび腰でした。セクハラ、パワハラ、マタハラなどのハラスメントの相談先については、市の男女平等参画相談室に相談すれば適切な所を紹介していると答弁がありました。また同性パートナーシップ条例の制定については、「全国24自治体で制度化しているが、今後も情報収集したい」という答弁がありました。

選択的夫婦別姓制度の導入を提案・可決

選択的夫婦別姓制度について、市はどういう姿勢でいるのかの質問については、国の動向を見守るという答弁でした。そのため、日本共産党議員団が提案者となって、「選択的夫婦別姓制度の導入を求める意見書」を提出しました。反対は自政ク（自民党）のみで、釧路市議会では自民は過半数に達していないため、決議案は可決されました。

今じゃ当たり前
ですよ!



■各会派の対応

自政ク	市民連合	公明	共産	新風	新創ク
×	○	○	○	○	○

※○は賛成 ×は反対

返済条件も明らかにせよ

9月議会の直前になって釧路市が市債を発行して釧路コールマイン株式会社へ4億円を貸し付けるという補正予算案が提出されました。同社は現在、SD採炭方式という大量生産型の機械で採炭しているのですが、これをルーム採炭方式という小規模生産型にサイズダウンし、それに合わせて関連する一切のシステムを変更しようとしています。この設備投資は総額13億円、同社の自己資金1億円、北海道産炭地域振興センターの基金から8億円、不足する4億円は市が同社に貸し付けます。

コールマインの採炭方式を変更

破格の支援策

疑問の残る4億円 市がコールマインへ貸付

返済期間、担保の有無等の詳細は、議案通過後決める。同社の財務諸表等の経営状況がわかる資料は民間会社のことなので、委員会には出せない。同社の経営は厳しい点もあるが、公益性がある事業なので理解してほしい。」と答弁。同社のメインバンクがなぜ融資をしないのかは明言を避けました。返済が滞ったら市民の税金で穴埋めすることになります。釧路の石炭産業の育成は大切ですが、不況で苦しむ市内の中小零細業者とはあまりに違う厚遇ではないでしょうか。



このチラシは
政務活動費で
作成しています

人口減対策として 市として 結婚・婚活 の支援を！



工藤正志 議員

釧路市の人口減対策として、結婚を求める市民に対して、「市内の婚活イベントや結婚に関する情報」などを集めた、長野市で取り組んでいるような『結婚応援ポータルサイト』を立ち上げて情報を発信する取り組みを検討していただきたく提案したいと思うがどうか」と質問しました。

総合政策部都市経営課からは、将来の人口減・市民の結婚応援として今後、検討していきたいとの答弁がありました。早急の実現に向けて、今後確認していきたいと思います。

子どもの 医療費無償化を、 もっと拡充すべき！



西村雅人 議員

私は、子どもの医療費無償化の拡充について、市長の見解をたどしました。現在釧路市は、子どもの医療費無償化は小学校入学前までしか行われていません。どうして拡充しようとしませんか理由を聞いたところ、最初に返ってきた答えは「全国一律の制度としてやるべきものだから」という趣旨でした。釧路コールマインには4億円も貸せるのに、1億4,100万円のできる小学校卒業までの医療費無償化はすぐにでもできるはず、という再追及に市長は「雇用環境を整えることが優先」と述べ、またもや市民の切実な要求に背を向けました。

阿寒川、最大規模の 洪水で避難29,000人。 しかし、避難所は 7,200人分!?



村上和繁 議員

阿寒川の洪水ハザードマップが完成しました。洪水は、計画規模と最大規模の2パターン。最大規模なら、市内の西部地域の多くが浸水します。「避難が必要な人は28,900人、避難所は10か所7,200人が収容可能（最大規模）」と答弁されました。市は「近くのところから順次避難所を開設し、さらに洪水規模が大きくなると予想された場合、別の安全な避難所に移動してもらう」とも答弁。「豪雨の中でどうやって別の避難所に移動するのか。移動手段は確保できるのか。近くにある津波避難ビルの活用を」と提案しました。

求められる エレベーター付市営住宅、 『だから美原』 M1・2・3・4・5は 建替えを！



梅津則行 議員

市営住宅に応募した方のほとんどは、エレベーター付きを希望しています。しかし、1部屋に40人が応募していて、入居が困難です。であれば除却（壊す）する計画の美原M1から5の住宅は、エレベーター付の住宅に建替えるべきです。それが、市民の要望に応える道です。市長に迫りました。



JR北海道問題、 日高線など5区間の維持存続を！

JR北海道が国や自治体の支援を前提に、今後存続を目指すとした8区間（釧網線・花咲線を含む）に対し、自治体の緊急的・臨時的支援が求められています。

しかし、年内に廃止を決定したいとする根室線（富良野－新得間）や日高線などの5区間は対象外です。今回この5区間が含まれない支援策として市の負担330万円が計上されました。

鉄道を守るのは国の責任なのに、沿線自治体に負担を押し付けるのは問題だと蝦名市長に見解をただし、補正予算には反対しました。

建設以来一度も取り換えていない 設備がズラリ、市立病院の電気施設 は大丈夫か？

市立病院の決算審査の中で、発電機とブレーカー類の大半が、病院建設以来36年間、全く更新されておらず、耐用年数を大幅に過ぎていることが判明しました。

西村雅人議員が、民生福祉常任委員会で「配管や電気設備が老朽化しているが問題はないのか」と質問した際には、「問題ない」と答弁していましたが、実際は発電機は油漏れ、低圧電灯No.2のMCCB（ブレーカー）は電動で動かないときがあるなど、業者から不具合が報告されていました。西村・村上の両議員が直ちに現地調査を行い、調査で判明した点を直接市長に伺いました。新棟建設を待たずに、必要な個所を修繕・更新することは当たり前のことではないでしょうか。